

大学キャンプ実習が行動力の成長に及ぼす影響に関する考察

共通教育センター 准教授 福満博隆、川畑和也（福岡大学）

要旨

現在の日本の若者・子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、他者への思いやりの気持ちや迷惑をかけないという気持ち、生命や人権の尊重の心、自制心や規範意識の低下、人間関係形成能力の低下などが指摘され、物事を考えて判断し行動するといった自主自立心、様々な体験や挑戦することによる自信や自己実現、多くの人と関わる対人関係、自然や生命に対する畏敬の念といった自然観などが低下しているのではないかと考えられる。

青年期のキャンプの効果として「野外教育、自然教育による社会的スキルやライフスキル、自己成長といった効果が実習を通して得られた。」、また、「キャンプ体験は、前に踏み出す力（アクション）の主体性と実行力、考え抜く力（シンキング）の計画性と創造力、チームで働く力（チームワーク）の発信力と傾聴力、状況把握力など社会人基礎力を構成する一部の能力に教育効果がある」と研究報告されている。これらのことから、先述した現代の若者を取り巻く問題に対し、キャンプの効果が大きく期待できると考える。

これらのキャンプ効果は、キャンプ後の日常生活においても発揮されることが期待される。しかしながら、青年期におけるキャンプ後の日常生活における行動力についての報告は少ない。

そこで本研究は、現代社会で低下が叫ばれている若者の行動力の成長を、キャンプ実習が行動力に与える影響から検証するために、独自に作成した質問紙を用いて、平成23年度、24年度の2年間において、鹿児島大学共通教育科目「自然体験活動入門講座」のキャンプ実習に参加した大学生を対象に、キャンプ実習前後における日常生活の行動力の変化を調査し、比較分析することで、自然体験活動が青少年期における人格形成の成長に及ぼす影響の実態とその要因を明らかにした。その結果として、年度別比較では、両年度共に全5因子（自主・自立、自信、自己表現、対人関係、自然観）での有意差な向上が見られたことから共通教育科目「自然体験活動入門講座」のキャンプ実習が参加学生の行動力の変化に影響を与えたことが推察された。また、男女別比較では、男子よりも女子の方が全5因子においてキャンプ実習の影響が大きかった。さらに、経験別比較では、キャンプ経験が少ない参加学生の行動力の因子の向上が多く見られ、キャンプ経験の多い者ではあまり有意な向上が見られなかったことから、入門編として適切な負荷であったことが示唆された。

キーワード：

大学キャンプ実習、野外教育、キャンプ効果、行動力因子、日常生活の行動力の変化

I. 緒言

現在の日本の若者・子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、他者への思いやりの気持ちや迷惑をかけないという気持ち、生命や人権の尊重の心、自制心や規範意識の低下、人間関係形成能力の低下などが指摘されている。現代の若者・子どもたちが、物事を考えて判断し行動するといった自主自立心、様々な体験や挑戦することによる自信や自己実現、多くの人と関わる対人関係、自然や生命に対する畏敬の念といった自然観などが低下しているのではないかと考えられる。

文部科学省が行った「青少年の野外教育の振興に関する調査研究協力者会議」¹⁾の中で野外教育の目標は「全人的成長を支援するための教育であると言える」と述べられ、野外教育の期待として、「自然や生命への畏敬の念を育て、自然と調和して生きていくことの大切さを理解させる機会」また、組織的な活動の中で「きまりや規律を守ること、協力することの大切さや、自ら実践し創造する態度を学ぶ」など「総合的学習の機会を提供するもの」と述べられている。青年期は自我同一性の確立をする時期であり、様々な体験から自分探しを行う時期であり、その失敗を恐れず行動することは重要になってくる。そのような青年期のキャンプの効果として高山(2009)²⁾は、「野外教育、自然教育による社会的スキルやライフスキル、自己成長といった効果が実習を通して得られた。」と述べている。また、青木ら(2012)³⁾は、「キャンプ体験は、前に踏み出す力(アクション)の主体性と実行力、考え抜く力(シンキング)の計画性と創造力、チームで働く力(チームワーク)の発信力と傾聴力、状況把握力など社会人基礎力を構成する一部の能力に教育効果がある」と述べている。これらのことから、先述した現代の若者を取り巻く数多くの問題に対し、キャンプの効果が大きく期待できると考える。

これらのキャンプ効果は、キャンプ後の日常生活においても発揮されることが期待される。二宮(2012)⁴⁾は野外キャンプの子どもの行動力の成長に与える影響に関して、キャンプ前後における日常生活の行動の変化から、自主自立、自信、自己実現、対人関係、自然観のそれぞれの項目に影響し、キャンプ後の子どもの行動力の成長にキャンプが影響していることを述べている。さらに、J.W. スミス(1985)⁵⁾は野外教育の特徴の1つとして「生徒が最も行動的になる」と述べ、「野外は生徒を刺激するような性質を持つ数多くの真の挑戦を提供してくれる。これによって学習過程において真に行動的になる。」と、野外キャンプの行動力に与える影響を述べている。しかしながら、青年期におけるキャンプ後の日常生活における行動力についての報告は少ない。

そこで本研究では、平成23年度、24年度の2年間において、鹿児島大学共通教育科目「自然体験活動入門講座」のキャンプ実習に参加した大学生を対象に、キャンプ実習前後における日常生活の行動力の変化を調査し、比較分析することで、自然体験活動が青少年期における人格形成の成長に及ぼす影響の実態とその要因を明らかにすることを目的とした。

Ⅱ. 研究方法

1. 被検者

平成23年9月20日(火)～22日(木)に行われた鹿児島大学共通教育科目「自然体験活動入門講座～高隈の森の中で学ぶ～」及び、平成24年9月11日(火)～13日(木)に行われた同科目のキャンプ実習に参加した学生78名(男性36名、女性42名)である。尚、実施プログラムは、平成23、24年度共に同様のものであるが、平成23年度は1日目が雨天のため、協力ゲームと宿泊が体育館にて行われた。

2. キャンプ実習の概要

本自然体験活動入門講座は農学部高隈演習林に隣接し、垂水市と鹿児島大学と提携して自然学

校をつくろうとしている垂水市立大野小中学校跡をベースキャンプとし、2泊3日の日程で行われた。学習目標として、1) 人間と自然の関わりについて考える機会となる、2) 自分と他人との関わりについて考える機会となる、3) 自分自身について考える機会となる、4) 生活技術や野外活動技術を学ぶ機会となる、の4点を挙げている。高隈の森の自然を利用した自然体験活動を通して、自然との触れ合いを深め、仲間と協力して成し遂げる喜びを体験し、自分の可能性について見つめ直す場としている。また、宿泊は全てテント泊であり、食事は7食中5食自炊を行った。

班編成に関しては、できるだけ学部学科が異なるように調整し平成23年度は1班10人の男女混合4班編成、平成24年度は1班6人の男女混合7班の編成とした。それぞれの班に、班長、副班長、食事係、薪係、装備係の役割を設けた。指導・運営に関しては講義担当教員、自然学校職員、以前この講座を受講したキャンプ経験のある学生がスタッフとして入り、運営を行い、キャンプカウンセラーとして、学生スタッフを2名ずつ各班に配置し、そのうちの5人が両年のキャンプ実習に関わり、2年間で2つの実習が同様に行われるように配慮した。

キャンプ実習のプログラムは、1日目にアイスブレイクや冒険的要素を含む課題を解決していく協力ゲームを行い、テント設営や野外炊事、ナイトプログラムを行った。2日目は野外炊事やネイチャーゲーム、実習のメインプログラムとして沢登りとキャンプファイヤーを実施した。3日目は竹林から学生が竹を切り出して竹細工を行い、昼食の流しそうめんを使用する、ルール、器、箸作りを実施した。昼食後のまとめではスライドショーの上映を行い、ふりかえりを行った。また、毎晩班ごとのミーティングの時間を設定し、ふりかえりを実施し、その後個人のふりかえりとして自由記述で感想や気づき、学びについて書かせた。

	1日目	2日目	3日目
朝	開村式 アイスブレイク テント設営	野外炊事 ネイチャー ゲーム	テント撤収 クラフト
昼	協力ゲーム 野外炊事	沢登り	大掃除 振り返り 閉村式
夕	ナイトプログラム 振り返り	BBQ キャンプファイヤー	

図1 キャンプ実習プログラム

3. 検査項目

(1) 被検者の特性

被験者の特性に関しては、受講年度、性別、キャンプ経験の3項目の回答を求めた。キャンプ経験に関しては、学校行事で実施される、宿泊学習、林間学校などの経験を除く経験回数を1) 0回、2) 1～3回、3) 4回以上とし選択させた。

(2) キャンプ実習前後の参加者自己分析

日常生活の具体的な行動力を捉えるために、独自に作成した質問紙法により調査を行った。この質問紙は、日常生活の行動力を1) 自主・自立における行動力、2) 自身における行動力、3) 自己実現における行動力、4) 対人関係における行動力、5) 自然観における行動力の因子の5つで捉えることができる25項目からなる質問用紙である。これらの項目に対し、「1：全くできていない」から「5：とてもできている」の5件法で回答させた。1つの因子は5項目の合計得点で評価することから、5から25点の範囲で示させることになる。

(3) 検査の手続き

キャンプ前 (Pre) の調査は、8月に実施した事前オリエンテーション時にて行った。また、キャンプ後 (Post) に関しては、キャンプ実施8週間後に行われた事後ふりかえり時に行った。

(4) 分析方法

キャンプ実習前後の参加学生の自己分析について実施した調査結果を5段階評定尺度に基づき

得点化し、参加した学生の年度、特性項目ごとにそれぞれ平均値、標準偏差を求め、平均値の差についてt検定を行った。また、25の質問項目を5つの因子（自主・自立、自信、自己表現、対人関係、自然観）ごとに平均値、標準偏差を求め、平均値の差についてT検定を行った。統計処理には、解析用プログラム SPSS Statistics 23を用いた。

Ⅲ. 結果と考察

1. 回収率

キャンプ実習参加者78名に対し調査を行ったが、事前オリエンテーションや事後ふりかえに参加できなかった者や、回答内容に欠落する項目が多かった者などが存在し、平成23年度は、回収率80.0%（32名；男性：16名、女性：16名）であり、平成24年度は、71.1%（27名；男性：11名、女性：16名）であった。2年度分の回収率は、75.6%（59名；男性：27名、女性：32名）であった。

2. 年度別行動力比較

平成23年度の5因子の平均値をみると（表1）、キャンプ前は16.13点、キャンプ後は19.50点であり前後差は3.37点であった。それぞれの因子では「自主・自立（ $t=-4.83; p<.001$ ）」、「自信（ $t=-5.88; p<.001$ ）」、「自己表現（ $t=-6.21; p<.001$ ）」、「対人関係（ $t=-5.87; p<.001$ ）」、「自然観（ $t=-5.66; p<.001$ ）」ですべての因子においてキャンプ後

表1 「平成23年度」行動力因子別比較

	pre		post		t-value
	M	SD	M	SD	
自主・自立	16.73	2.90	19.52	2.09	-4.83 ***
自信	14.73	2.94	17.79	2.76	-5.88 ***
自己実現	16.33	3.28	19.91	2.55	-6.21 ***
対人関係	16.00	3.73	19.94	3.08	-5.87 ***
自然観	16.85	2.88	20.33	2.79	-5.66 ***

*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$

に有意な向上が認められた。また、因子項目ごとに見みると、全25の因子項目ごとにおいても、キャンプ後に有意に向上したことが認められ、平成23年度において、キャンプ実習が参加学生の行動力に影響を与えたことが推察された。また、キャンプ前後で最も差が大きかった因子は、「対人関係」であり、班編成が、各10人の4班編成で、1班あたりの人数が多かったことから、人と関わる機会が多かったことが考えられる。

次に、平成24年度の5因子の平均値をみると（表2）、キャンプ前は16.75点、キャンプ後は19.35点で前後差は2.6点であった。それぞれの因子では「自主・自立（ $t=4.37; p<.001$ ）」、「自信（ $t=4.61; p<.001$ ）」、「自己実現（ $t=5.50; p<.001$ ）」、「対人関係（ $t=4.39; p<.001$ ）」、「自然観（ $t=5.13; p<.001$ ）」ですべての因子においてキャンプ後に有意な向上が認められた。また、因子項目

表2 「平成24年度」行動力因子別比較

	pre		post		t-value
	M	SD	M	SD	
自主・自立	17.14	2.65	19.11	3.86	-4.37 ***
自信	15.50	2.71	18.07	3.70	-4.61 ***
自己実現	17.57	3.74	19.79	4.28	-5.50 ***
対人関係	16.96	3.38	19.86	4.43	-4.39 ***
自然観	16.57	3.49	19.93	4.35	-5.13 ***

*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$

目ごとに見みると、25項目中21項目で有意な向上がみられ、平成24年度においても、キャンプ実習が参加学生の行動力に影響を与えたことが推察された。キャンプ前後で最も差が大きかった因子は、「自然観」であった。これは、キャンプの全日程で天候に恵まれ、屋外での活動がすべて計画通り実施されたことに起因すると考えられる。

また、平成23年度、24年度共に、全5因子において有意な向上が認め、それぞれのキャンプ実習には大きな違いがないことが推察された。このことは、両キャンプ実習が参加学生の行動力の成長に同様に影響を与えたことを示すものと考ええる。「自信」因子に関しては、どちらも有意な向上が見られたが、キャンプ前後とも他の因子よりも低い得点であった。これは、参加学生の自己肯定感等の低さを示しており、今日の若者が自己肯定感の低さを指摘される（文科省2016）⁶⁾結果の一つと考えられる。

3. 男女別行動力比較

男子における5因子の平均値をみると(表3)、キャンプ前は15.86点、キャンプ後は18.44点で前後差は、2.56点であり、それぞれの因子では「自主・自立 ($t=-4.32;p<.001$)」、「自信 ($t=-2.94;p<.01$)」、「自己表現 ($t=-3.93;p<.01$)」、「対人関係 ($t=-5.47;p<.001$)」、「自然観 ($t=-4.20;p<.001$)」でキャンプ後に有意な向上が認められた。また、因子項目ごとに見みると(表4)、25項目中20項目で有意な向上がみられた。しかし、自信に関する因子項目において得点の変化が見られず、男子学生の自信の低さが現れた結果となった。

次に、女子における5因子の平均値をみると(表5)、キャンプ前は16.88点、キャンプ後は20.27点で前後差は3.39点であった。それぞれの因子では「自主・自立 ($t=-2.58;p<.05$)」、「自信 ($t=-3.96;p<.001$)」、「自己実現 ($t=-2.33;p<.05$)」、「対人関係 ($t=-2.58;p<.05$)」、「自然観 ($t=-3.41;p<.01$)」で、すべての因子においてキャンプ後に有意な向上が認められた。因子項目ごとに見みると(表6)、25項目中17項目で有意な向上がみられた。変化が見られなかった8つの項目では、キャンプ前から得点が高かったことが要因として考えられる。また、男子では、「自然観」因子の平均値の差が最も大きく、次に「対人関係」因子が大きかった。それに対し女子は、「対人関係」因子の平均値の差が最も大きく、次に「自然観」因子が大きかった。女子は、男子よりも全ての因子において平均値の差が大きく、特に「自信」因子では、男子よりもキャンプ前後の差が大きかった。これは、女子の班長や副班長など班の中心の役割を行う女子学生が多く、積極

表3 「男子」行動力因子別比較

	pre		post		t-value
	M	SD	M	SD	
自主・自立	16.57	2.82	18.86	3.37	-4.32 ***
自信	15.21	2.68	17.11	3.33	-2.94 **
自己実現	16.11	3.94	18.71	3.96	-3.93 **
対人関係	15.36	3.51	18.36	4.05	-5.47 ***
自然観	16.07	3.36	19.18	4.28	-4.20 ***

*** $p<.001$,** $p<.01$,* $p<.05$

表5 「女子」行動力因子別比較

	pre		post		t-value
	M	SD	M	SD	
自主・自立	17.21	2.65	19.73	2.56	-2.58 *
自信	14.97	2.93	18.61	2.86	-3.96 ***
自己実現	17.58	2.89	20.82	2.44	-2.33 *
対人関係	17.36	3.32	21.21	2.76	-2.58 *
自然観	17.27	2.80	20.97	2.47	-3.47 **

*** $p<.001$,** $p<.01$,* $p<.05$

表4 「男子」行動力因子項目別比較

	pre		post		t-value
	M	SD	M	SD	
自主・自立①	3.36	0.81	3.79	0.56	-2.09 *
自主・自立②	3.46	0.82	3.86	0.95	-2.74 *
自主・自立③	3.07	0.80	3.71	0.92	-3.47 **
自主・自立④	2.96	0.82	3.39	0.98	-2.84 **
自主・自立⑤	3.71	0.88	4.11	0.90	-2.68 *
自信①	2.79	0.86	3.14	1.06	-1.95
自信②	2.71	0.59	3.32	1.07	-4.75 ***
自信③	3.29	0.99	3.43	1.18	-0.78
自信④	3.25	0.87	3.79	0.82	-1.95
自信⑤	3.18	0.85	3.43	0.98	-2.00
自己実現①	3.07	0.92	3.61	1.01	-3.20 **
自己実現②	2.96	1.43	3.57	1.32	-2.93 **
自己実現③	3.04	0.94	3.39	0.90	-1.76
自己実現④	3.79	0.94	4.21	0.94	-4.03 ***
自己実現⑤	3.25	0.99	3.93	0.96	-3.16 **
対人関係①	2.93	0.80	3.50	0.94	-5.02 ***
対人関係②	3.21	0.77	3.86	0.99	-6.22 ***
対人関係③	3.32	0.85	3.82	0.89	-4.17 ***
対人関係④	3.29	1.03	3.86	0.91	-3.86 **
対人関係⑤	2.61	0.72	3.32	0.97	-3.75 **
自然観①	3.43	0.82	3.93	0.96	-3.00 **
自然観②	2.96	0.87	3.64	1.04	-5.77 ***
自然観③	3.11	0.72	3.82	1.04	-3.38 **
自然観④	3.04	0.91	3.68	1.07	-2.59 *
自然観⑤	3.54	0.91	4.11	1.01	-2.83 **

*** $p<.001$,** $p<.01$,* $p<.05$

表6 「女子」行動力因子項目別比較

	pre		post		t-value
	M	SD	M	SD	
自主・自立①	3.39	0.78	3.85	0.61	-3.08 **
自主・自立②	3.70	0.67	4.00	0.70	-0.83
自主・自立③	3.30	0.76	3.82	0.87	-1.81
自主・自立④	3.06	0.78	3.70	0.76	-2.10 *
自主・自立⑤	3.76	0.49	4.36	0.59	-2.51 *
自信①	2.64	0.81	3.33	0.72	-3.02 **
自信②	2.94	0.74	3.88	0.64	-3.17 **
自信③	3.03	1.11	3.73	1.05	-2.73 *
自信④	3.24	0.92	3.85	0.89	-3.15 **
自信⑤	3.12	0.88	3.94	0.70	-2.82 **
自己実現①	3.24	0.85	3.88	0.64	-2.03
自己実現②	3.58	1.10	4.21	0.88	-1.23
自己実現③	3.39	0.89	3.85	0.86	-1.38
自己実現④	3.91	0.75	4.76	0.43	-2.73 *
自己実現⑤	3.45	0.74	4.12	0.64	-2.55 *
対人関係①	3.61	0.89	4.27	0.71	-1.51
対人関係②	3.70	0.72	4.45	0.56	-1.73
対人関係③	3.52	0.74	4.36	0.64	-2.71 *
対人関係④	3.45	0.66	4.30	0.58	-2.87 **
対人関係⑤	3.09	1.00	3.82	0.76	-2.36 *
自然観①	3.61	0.69	4.36	0.64	-3.23 **
自然観②	3.58	0.74	4.27	0.66	-0.88
自然観③	3.24	0.89	4.12	0.64	-3.97 ***
自然観④	3.06	0.89	3.70	0.80	-2.41 *
自然観⑤	3.79	0.69	4.52	0.61	-3.12 **

* $p<.001$,** $p<.01$,* $p<.05$

的に取り組んだ結果が反映されたことが考えられる。そしてこのキャンプ実習が、多くの自然体験を通して、自分自身について考える機会となり、協力ゲームや沢登りなどの負荷の強いアクティビティの達成感が「自信」への行動力の成長につながったことが考えられる。これらのことから、男子よりも女子の方がすべての因子においてキャンプ実習の影響が大きく、行動力のある女子が多いことがうかがえる。

4. 経験別行動力の比較

経験①群（キャンプ経験回数0回）における5因子の平均値をみると（表7）、キャンプ前は15.93点、キャンプ後は19.23点で前後差は3.3点であった。それぞれの因子では、5因子中4因子「自主・自立（ $t=-3.06; p<.01$ ）」、「自信（ $t=-3.47; p<.01$ ）」、「対人関係（ $t=-4.41; p<.01$ ）」、「自然観（ $t=-2.86; p<.05$ ）」でキャンプ後に有意な向上が認められた。有意差が見られなかった因子は、「自己実現」であった。因子項目ごとに見みると（表8）、25項目中12項目で有意な向上がみられた。

次に、経験②群（キャンプ経験回数1～3回）における5因子の平均値をみると（表9）、キャンプ前は16.79点、キャンプ後は19.81点で前後差は、3.02点であった。それぞれの因子では、5因

表7 「経験①」行動力因子別比較

N=15	pre		post		t-value
	M	SD	M	SD	
自主・自立	16.80	2.64	19.67	1.78	-3.06 **
自信	14.47	2.31	17.20	2.32	-3.47 **
自己実現	16.73	3.19	20.13	2.42	-1.92
対人関係	15.47	3.30	19.47	2.58	-4.41 **
自然観	16.20	2.10	19.67	3.05	-2.86 *

*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$

表9 「経験②」行動力因子別比較

N=30	pre		post		t-value
	M	SD	M	SD	
自主・自立	17.06	2.31	19.58	2.71	-3.69 **
自信	15.58	2.70	18.35	3.29	-3.59 **
自己実現	17.23	3.18	20.10	2.93	-4.72 ***
対人関係	17.10	3.44	20.42	3.35	-4.01 **
自然観	16.97	2.79	20.61	2.86	-5.42 ***

*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$

表8 「経験①」行動力因子項目別比較

N=15	pre		post		t-value
	M	SD	M	SD	
自主・自立①	3.20	0.75	3.80	0.40	-1.87
自主・自立②	3.40	0.71	3.73	0.68	-1.78
自主・自立③	3.20	0.65	4.07	0.68	-3.56 **
自主・自立④	3.27	0.68	3.80	0.40	-0.90
自主・自立⑤	3.73	0.57	4.27	0.57	-1.78
自信①	2.47	0.72	3.07	0.68	-2.20 *
自信②	2.80	0.65	3.53	0.81	-2.32 *
自信③	2.93	0.93	3.20	0.75	-0.76
自信④	3.27	0.93	3.87	0.81	-1.10
自信⑤	3.00	0.63	3.53	0.72	-1.57
自己実現①	3.13	0.72	3.80	0.65	-1.78
自己実現②	3.27	1.18	3.87	1.09	-0.90
自己実現③	3.33	0.70	3.73	0.57	-0.46
自己実現④	3.67	0.87	4.60	0.61	-2.55 *
自己実現⑤	3.33	0.79	4.13	0.34	-1.95
対人関係①	3.00	0.82	3.80	0.75	-2.78 *
対人関係②	3.40	0.80	4.33	0.70	-2.48 *
対人関係③	3.33	0.79	4.00	0.52	-2.55 *
対人関係④	3.27	0.85	3.93	0.44	-3.60 **
対人関係⑤	2.47	0.62	3.40	0.71	-4.04 **
自然観①	3.47	0.62	3.93	0.77	-1.61
自然観②	3.33	0.60	4.00	0.63	-2.36 *
自然観③	3.00	0.63	3.93	0.68	-2.96 *
自然観④	2.93	0.68	3.60	0.80	-1.60
自然観⑤	3.47	0.50	4.20	0.75	-3.16 **

*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$

表10 「経験②」行動力因子項目別比較

N=30	pre		post		t-value
	M	SD	M	SD	
自主・自立①	3.42	0.75	3.77	0.61	-2.21 *
自主・自立②	3.61	0.75	4.10	0.69	-1.79
自主・自立③	3.29	0.81	3.74	0.67	-1.94
自主・自立④	3.00	0.72	3.68	0.78	-2.91 **
自主・自立⑤	3.74	0.57	4.29	0.73	-4.33 ***
自信①	2.71	0.96	3.23	0.87	-2.57 *
自信②	2.97	0.69	3.74	0.84	-4.00 ***
自信③	3.26	0.98	3.81	1.15	-1.41
自信④	3.35	0.78	3.84	0.85	-2.31 *
自信⑤	3.29	0.89	3.87	0.76	-2.38 *
自己実現①	3.13	0.94	3.81	0.78	-3.58 *
自己実現②	3.29	1.27	3.97	1.00	-4.90 ***
自己実現③	3.39	0.94	3.74	0.91	-1.22
自己実現④	4.03	0.82	4.55	0.61	-3.34 ***
自己実現⑤	3.39	0.75	4.03	0.74	-4.14 ***
対人関係①	3.48	0.84	4.03	0.86	-2.52 *
対人関係②	3.58	0.75	4.23	0.75	-4.17 ***
対人関係③	3.52	0.80	4.23	0.75	-3.86 **
対人関係④	3.48	0.88	4.26	0.72	-3.00 **
対人関係⑤	3.03	0.93	3.68	0.89	-3.67 **
自然観①	3.55	0.76	4.26	0.72	-4.21 ***
自然観②	3.42	0.79	4.03	0.90	-3.67 ***
自然観③	3.26	0.84	4.13	0.75	-3.76 **
自然観④	2.94	0.84	3.81	0.90	-3.61 **
自然観⑤	3.81	0.74	4.39	0.75	-3.45 **

*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$

子中全ての因子「自主・自立 ($t=-3.69;p<.01$)」、「自信 ($t=-3.59;p<.01$)」、「自己実現 ($t=-4.72;p<.001$)」、「対人関係 ($t=-4.01;p<.01$)」、「自然観 ($t=-5.42;p<.001$)」、でキャンプ後に有意な向上が認められた。因子項目ごとに見みると (表10)、25項目中21項目で有意な向上がみられた。

さらに、経験③群 (経験回数4回以上) における5因子の平均値をみると (表11)、キャンプ前は16.12点、キャンプ後は18.84点で前後差は、2.72点であった。それぞれの因子では、5因子中2つの因子「自信 ($t=-3.19;p<.01$)」、「対人関係 ($t=-1.95;p<.05$)」でキャンプ後に有意な向上が認められた。因子項目ごとに見みると (表12)、25項目中8項目でのみ有意な向上がみられた。経験別に比較すると、経験②群のみ全ての因子で有意な差が見られたが、経験①、③群では見られない因子があった。群経験①で有意差が見られなかったのは、「自己実現」因子であり、経験③では、「自主・自立」、「自己実現」、「自然観」の因子であった。経験①群では、初めての自然体験活動に対し、不安などから受け身な姿勢となり、自分から進んで挑戦できず、行動に移すまでの自信や意欲に繋がらなかったことが考えられる。経験②群では、学習目標の全てが達成され、特に「自己実現」、「自然観」因子において有意な向上がみられたことから、普段の生活とは異なり、進んで取り組む意欲を育むものであり、自然での生活が特別なものであったことや、その負荷が適切なものであったことも推察される。また、経験別で唯一「自己実現」因子で有意な向上がみられ今回の入門編としてのキャンプに適度な経験備わっており、実行力の向上に影響したことが推察される。さらに、経験③群では、自然体験活動に慣れている、もしくは普段から自然と触れあう環境にいる参加者が多く、環境的影響や活動負荷の影響が少なかったことや、新たに挑戦する機会が少なかったことが推察される。これらの経験別の結果から、今回の「自然体験活動入門講座」が自然体験活動への入門編として適切な活動負荷であったことが示唆された。

Ⅳ. 結語

現代社会で低下が叫ばれている若者の行動力の成長を、キャンプ実習が行動力に与える影響から検証するために、独自に作成した質問紙を用いて、2年間において、鹿児島大学共通教育科目「自然体験活動入門講座」のキャンプ実習に参加した大学生を対象に、キャンプ実習前後における日常生活の行動力の変化を調査し、比較分析した。その結果として、

1. 年度別比較において、両年度共に全5因子での有意差な向上が見られたことから、共通教育科目「自然体験活動入門講座」のキャンプ実習が参加学生の行動力の変化に影響を与えたことが推察された。

表 11 「経験③」行動力因子別比較

N=14	pre		post		t-value
	M	SD	M	SD	
自主・自立	16.73	3.55	18.47	4.13	-1.88
自信	14.67	3.30	17.73	3.51	-3.19 **
自己実現	16.40	4.24	19.07	4.74	-1.85
対人関係	16.07	3.73	19.27	4.96	-2.18 *
自然観	16.73	4.34	19.67	4.87	-1.95

*** $p<.001$,** $p<.01$,* $p<.05$

表12 「経験③」行動力因子項目別比較

N=14	pre		post		t-value
	M	SD	M	SD	
自主・自立①	3.47	0.88	3.93	0.68	-2.26 *
自主・自立②	3.73	0.77	3.80	1.11	-1.00
自主・自立③	3.00	0.82	3.53	1.31	-1.85
自主・自立④	2.80	0.98	3.07	1.18	-1.70
自主・自立⑤	3.73	1.00	4.13	0.96	-1.00
自信①	2.93	0.57	3.47	1.09	-1.19
自信②	2.60	0.61	3.47	1.09	-3.42 **
自信③	3.13	1.31	3.53	1.26	-1.75
自信④	3.00	1.03	3.73	0.93	-3.55 **
自信⑤	3.00	0.97	3.53	1.15	-2.13
自己実現①	3.27	0.93	3.60	1.08	-1.45
自己実現②	3.33	1.45	3.87	1.45	-0.41
自己実現③	2.80	0.98	3.33	1.07	-2.71 *
自己実現④	3.67	0.79	4.33	1.07	-2.45 *
自己実現⑤	3.33	1.14	3.93	1.18	-1.16
対人関係①	3.20	1.05	3.80	1.11	-1.87
対人関係②	3.33	0.79	3.93	1.06	-1.78
対人関係③	3.33	0.79	4.00	1.10	-2.20 *
対人関係④	3.27	0.77	3.93	1.06	-2.57 *
対人関係⑤	2.93	1.00	3.60	1.02	-1.54
自然観①	3.53	0.88	4.20	1.05	-1.92
自然観②	3.00	1.10	3.87	1.15	-1.55
自然観③	3.20	0.91	3.73	1.12	-2.36 *
自然観④	3.40	1.08	3.53	1.09	-0.72
自然観⑤	3.60	1.08	4.33	1.07	-2.05

*** $p<.001$,** $p<.01$,* $p<.05$

2. 男子よりも女子の方が全5因子においてキャンプ実習の影響が大きかった。
3. 経験別において、キャンプ経験が少ない参加学生の行動力の因子の向上が多く見られ、キャンプ経験の多い者ではあまり有意な向上が見られなかったことから、入門編として適切な負荷であったことが示唆された。

今後の課題としては、経験別によって行動力の変化に違いが見られたことから、キャンプ経験のない学生が「自主・自立」、「自己実現」の因子においても、より行動力の向上ができるよう、経験度に配慮した班編成と、初心者が積極的に行動できる働きかけについて検討したい。また、キャンプ後の行動力の向上の継続性についての調査や入門編の他に、参加学生の経験度に合わせた発展編のキャンプ実習企画を検討したい。

参考文献

- 1) 文部科学省(1996) 青少年の野外教育の充実について(青少年の野外教育の振興に関する調査研究協力者会議・報告)
- 2) 高山昌子(2009) 大学の組織キャンプの効果に関する一考察、太成学院大学紀要、11、85-95
- 3) 青木康太郎(2012) キャンプ体験が大学生の社会人基礎力の育成に及ぼす効果に関する研究、北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要、3、27-39
- 4) 二宮理一(2012) キャンプが子どもの行動力の成長に及ぼす影響に関する研究、健康教育研究、12、46-48
- 5) J.W. スミス(1985) 新しい野外教育、不昧堂出版、55
- 6) 文部科学省(2016) 日本の子供たちの自己肯定感が低い現状について(第38回教育再生実行会議の参考資料2)